

一 彦とはすぐれたおとこの意。てんひこは豊かな未来を創造する者たちの集団である。



てんひこ

発行所 株式会社天彦産業 東大阪市長田西5丁目10番地 電話(06)744-1701(代)
編集発行責任者 余暇利用委員会 (山川隆男、茨木繁雄、富松純、新名幸江、中島文子)

※※※※※

社内報創刊に際して

専務取締役 樋口克彦

※※※※※

創業一〇五年を経た我社に
って昭和五十五年度は近代
化への夜明けとも言える年
になるのではないかと感じてお
ります。

朝礼、体操の実施、各委員会
の設置、全社員が何か課題を
持って自己啓発に努める姿勢
等それぞれが自分の会社と言
う認識を持ち、各自の能力向
上が全体のレベルアップに繋
がり自分達の成果を獲得しよ
うと言う意気込みが感じられ
誠に心強く思っている次第で
す。こゝに余暇利用委員会行
事の一環として社内報が発刊
される事は非常に慶ばし
い事と感じ入っております。

この社内報は社員相互の結束
融和はもとよりの事、会社と
社員家族、社員家族間の交流
を深めてくれるものと期待し
ております。

この厳しい社会情勢、経済環

境の中で各社員それぞれが自
分の持場で精一杯働いている
姿をその土壌である家庭に良
く理解して頂き我々の大目標
である「企業の社会性を発揮
し乍ら各自の生活向上を計る
」活躍の場に心身共万全の状
態で参加出来る様、御協力賜
われれば幸いと存じます。

私達経営陣としては社員はも
とよりの事、その御家族の生
活向上と幸福に向けて尚一層
の努力を致さねばと、我々の
双肩にかゝってくる責任の重
さを痛感しております。

五十四年度

十大ニュース

一、平均月商、一億一千万に
アップ

二、朝礼、掃除当番、ラジオ
体操実施

三、資格制度及び委員会発足
四、平均年令三十七・六才

新入社員、三名(武田、新
名、中島)

五、歳末助け合い運動に八万
三千七百八十九円寄付

六、ブッシュホン及び社内放
送設備

七、慰安旅行、順延

八、定期検診実施(長田クリ
ニック)

九、部長、竹森氏、療養、入
院

十、エイタロー家出(社内が
美しくなる)

昭和五十五年度

“慰安旅行決まる”

昨年より、順延となってお
りました社内旅行は、左記の
通り決定しました。

日程 五月二日(金曜日)

五月六日(月曜日)

渡航先 シンガポール

尚、詳細は後日、号外をも
って、お知らせしますので、

姉と私



私には幸子という同い年の
姉がいます。生れた日から高
校までずっと同じ道を歩ん
で来ました。姉と言うよりは仲
のいい友達という感じで今ま
で一度もお姉さんと言った事
はありません、でも悩み事や
困った事があれば一番先に姉
に相談します。高校までは二
人三脚といった感じでいつも
一緒にいました。高校を卒業
してからは、姉は学生、私は
社会人、と違う道を進んだ為
に一緒にいる時間は少なくな
り朝はまだ寝ている姉を横目
で見ながら会社へ行き、いつ
もうらやましく思っ二年間
通勤しました。今では姉も卒
業し同じ社会人となり、共通
の話題で会社の事など話した
り仕事の悩み事なども話し合
っています。いつまでもよき
パートナーであると思います。

南 恵子

つながりのある

趣味

適日、友人とミナミのスパックに行った時のことである。「サンタ・ルチア」を朗々たる声でうたった中年のママがこんな話をしてくれたのが印象に残った。

「私の父はもう八十過ぎですが六十そこそこしか見えないうえ、若々しいのよ。それは父、返歌作りを趣味としていて、たえず、主婦や若い人たちに、囲まれているからなの。」そして、「趣味という

のは、仕事や実庭と関係のないところで持つのではなくてそのどこかでつながりながら一つでも多くの趣味をもつのが若さを保つヒケツだと思ふの。」というものであった。

さて、みれば、男の人生というのは職場と家庭との往復のようなものであるから、それらと関係のないところに、自分の趣味をもとめるのは、これはやはり逃避以外の何も

でもないわけ、このママの言うのは、釣りであれ、音楽鑑賞であれ、寺院めぐりであれ、どこかで、日常のライフサイクルに接点をもった仲間が必要だという意味に私はとったのだが、職場なり、得意先なりに共通の趣味を持つ友人がいて、何らかの形でビジネスともつながっているというのは、えてしてビジネス自体に無機的性質が求められ易いだけに、それは愉しいし有効だと思われるのである。

仕事柄、初対面の人と接する機が多く、あいさつの中で「ご趣味は？」とたずねたりたずねられたりすることも多い。若い時なら「無芸、大食」も芸のウチであろうが、腹が突き出て、足許も見にくくなった今日では、シャレにもなっていない。

趣味を通り越した「バファローズ狂い」の方は別として「休日フロートイレ以外はメシも床の中」という、モノグサ亭主をそろそろ返上しな

ければ……と感じ、っている今日このごろなのです。

萩原利武

忘年会始末記

十二月十四日、金曜日、布施で忘年会が行なわれた。

私には天彦産業の忘年会は、初めてのことでしたので、どのように行なうかわからなかった。少し気掛りでした。

九月だったと思いますが、琵琶湖に行った時に、お酒は飲まねえと言ったのに、飲んだので、忘年会では、飲ま

されるのではと思ったが、幸いのこと、少し部屋が狭かったのだけれど、席より放れなかった。

六時ごろより、初まった宴会も八時過ぎには終わった。早く帰えれると思ったが、南へ行

会社で請求書を見る所の、森岡へ行ったが、席が無くて近くのクラブへ行った。

なより一足先に、課長と工場長の三人で帰えった。家に着いたのは、十一時ごろだった、後に残った人達のものも気になりながら床についた。

翌朝、会社へ行ってビックリ、何時まで飲んでいたので事務と課長だけだった。

新入社員感想

昭和五十四年七月二日に、入社して早くも半年を過ぎた

訳ですが、まだまだ未熟者。電話一つにしても、とまどっ

てはつきり対応できない事も再々ありますが、少しでもうまくなりたいと思います。

新聞を出す事になって、何かを書けという事です。学生の時代から、文章を書くのがきらいで、又まとめるのが下手なせいもある、こういう機会は、なかなかと言っていいほど、ありませんでした。又自分で作ろうと思わなかったんです。だから今度の事で

何か心の中のもの、パッとしたような気がします。

朝礼でも一度、話をしたんですが、最近、特に一日の流れを早く感じる、そんな中で何かをするという事は、少しでも充実感というものを味わえ、又、自分自身の満足感というものも感じれる、そんな気がしました。(少しオーバーになったみたい。)

中島文子

貸出文庫について

おねがい

このたび、自己啓発委員会では、会社内にある各種の図書に興味と娯楽、一般教養、ビジネス、政治などの項目に整理して貸出図書リストを作成し、皆さんに大いに利用していただくことになりました。書だなにとりつけてある貸出ノートに自分で記入して、何時でも、自由に持出し出来るようにしたいと思っております。家族の方にも利用していただければ、幸いと思います。



名鑑

さいとう やすへい
齊藤 安平
営業課長



昭和十年六月二十六日

新潟県三島郡日吉村にて誕生

昭和二十九年三月、新潟県立

長岡商高卒業後、三十二年、

三月より、天彦社員となる。

◆ 身長 一六四センチ

◆ 体重 七十一キログラム

健康状態 や、良

次号より入社時から現在迄

の、楽しかった事、苦しかっ

た事等を連載します。

社員の方々だけでなく、家

族の方々と、紹介したい人が

あれば、どしどし投稿下さい。

◆ 生年月日 八月一日

◆ 入社 昭和四十一年一月

◆ 家族 夫、一男一女

◆ 体 一五六 五六 不明

◆ 性格 おとなしく、やさ

しく (力持ち) 本人談

◆ 趣味、特技

紙人形、木彫り、ろうけつ

◆ 一度、天彦のマークを、ろ

うけつにして、額に入れ、み

たいそうです。(でも、ここ

まではなかなかねえ)



おき あさこ
沖 朝子
本社 事務員

生命と健康

食べ事だけに精一ぱいであ

った、戦後とくらべると生命

と健康に強い関心がもたれる。

現在は、本当に幸である。

◆ 本来の健康、それは健康な

生活づくりによって生まれて

来る、其のポイントは、毎日

の健康点検、疲れと休養、ス

トレスとリラックスのバラン

読書はひとつの

人生の修業である

読書にも色々有り、この方

法が一番身に付く読書法と言

うのは有りません。それだけ

に乱読に走りがちです。

古典物などその典型ですが、

これは、大変な作業で途中で

投げ出してしまいかねません

から、やはり身近な物、自分

の仕事に関係が有る物は、興

味も有りますし、覚えもいい

ようです。

ス調整、そして栄養、健康的な環境、これ以上に大切なのが心の健康である。

健康は、たんに人生を生きぬく手段ではなく、人生幸福そのものである。

生命と健康によって、毎日職場で皆と働ける事は、なんとすばらしい事だろう。

私達、人間はその事を忘れがちである。

竹森 勝

直接仕事にも役立つことが有りますし、そこからひとつの見識もでてくるでしょう。

読書で求めるのは、知識の即効性ではないのです。

少年時代に読んだものが肥やしになって大人になってから生かされる場合が有ります。

ともかく忙しい身体で毎日読書するのは、至難の業ですが人生修業だと思いい習慣にするのが「コツ」です。それがやがて、人間を大きくたくましくするのです。

まず一冊、最も身近な物、興

味を引く物から始めていき、それが終わったら、また類書をと言うように、読書は心の糧となります。

一、世の中で、一番楽しく、立派な事は一生涯を貫く仕事をすることです。

二、世の中で、一番惨めな事は、人間として教養の無いことです。

三、世の中で、一番寂しい事は、仕事の無いことです。

四、世の中で、一番醜い事は他人の生活をうらむことです。

五、世の中で、一番尊い事は人のために奉仕し、決して恩にきせないことです。

六、世の中で、一番美しい事は、総ての物に愛情を持つことです。

七、世の中で、一番悲しい事は、噂をつくことです。

樋口 吉久



私の幼年期

(長兄との出会い)

昭和二十四年七月二十五日
天神祭の節、太鼓の音が佳境に入った夕暮れ時、私は生れた。この様な背景におめでたい今日の私があるのかもしれない。

あれは、私が五才の夏、十五才年上の長兄(専務)が滋賀大在学中の夏休み田舎に帰

えて来た時のこと、めったに帰って来ない人なので当時、物心がつき始めた頃の私は兄貴という気持で接したことがなかった。

そんなある日、いっしょに風呂に入る機会が出た。

当時の風呂は、水道もガスも無い、俗に言う五衛門風呂と言うやつで鉄製の板の底を入れるやつだった。

私にとって他人と交わらぬ存在の兄貴と入るといのは、勇気のいることだった。よく覚えて無いがたぶん、「友、風呂いっしょに入るか」と言

われ、小さく「うん」とうなづいたと思う、そんな状況だったので、終始緊張の連続で兄貴の入っている浴槽の中へ足を入れた。

この一瞬の事は今でもはっきり記憶に残っている。

とにかく大声で「あつい」と呼びたかったが、親しみの無い兄貴には、つい言えず、

身体のしびれを耐え身を中に没めた。

その時、「あついか?」「ううん、あつない」という会話が、複雑な兄貴の顔が今でも頭から離れない。

ながい、入浴時間(実際に短かったかもしれない)は終わった。

風呂から上がった私の身体は真赤に染まっていた。

樋口 友夫

夢にまで見た

甲子園

私は小学五年生の頃から野球というものに親しんできた。中学二年頃までは、趣味として野球を続けてきた。そして

三年になり高校受験の頃になつて、甲子園球場でプレーしてみたという願望が沸いてきたので――

私の叔父は、野球をやっていたんです。小さい頃、その叔父が、県大会のベスト4まで勝ち進んで、テレビに出た事があるんです。その時、小さいながらも私は、「僕も高校にいつて、テレビに出るんだ」と、父に話した事を覚えています。

そして、三条商業に入学して、入学式を十日後に控えて、早々、野球部に入部し、硬球を手に甲子園出場を頭に描きながら血を吐き、倒れるまでの厳しい練習を続けてきた。

情容赦なく飛んでくるノックの雨、齒をくいしばって頑張ってきた。しかし、結果は、その甲斐なく、ベスト8どまり無念の敗退でした。試合が

終わってからというもの、人にはわからないだろうが、くやしき、みじめさ、そして、最善を尽しての敗退という満

足感で涙が止まらなかった。抱き合つて泣くやつ、壁をたたきながら一人で泣くやつもいた。

これで、夢にまで見た甲子園は、無惨にも三商を見捨ててしまったのです……

それが今、私は大阪へ、出てきました。甲子園なんて、電車で四十分です。今だったらいつでも行けますほんとに妙なものです。

今、一番感じる事というと、大阪へ出てくるのが一年遅かったらしい……

武田 恒夫

専務宅へ行って

年頭から、専務の自宅へ会社の新年会を兼ねて、招待受かり、誠に有難うご座居ました。

其の時の思い付きを、多少触れて、私の感想として、書述べます。

実は、専務宅へ訪問、子供さん達の、言動、行動態度が

非常に明朗活発なのは、専務が日常会社で行なっている指導方針と全く、類似して居ると推察、敬服致しました。

そして、奥様も解放的な雰囲気になる様、配慮頂いたお蔭で、私達一同も、遠慮なく、誰一人として、他人に迷惑が掛る様な、悪評を指摘せず、また、泥酔をして、悪態行為を表す事なく、大変楽しく、用意された、鍋料理を賞味出来た事を、誠に感謝する思いが致します。 編集部員

編集後記

余暇利用委員会の、課題となつておりました、社内報がいよいよ出来上りました。

新聞というより、何か文集のような感じになりましたが、次号からは、もっと、バラエティーに、とんだものにして行きたいと思つております。

今後、二、三ヶ月に一回程度の発行を予定しておりますので、今回同様の、御協力を、宜しくお願い致します。